

第3回狭山ニュータウン地区活性化指針策定委員会議事録（要旨）

日時	平成30年9月19日（水）午前9時半～
場所	大阪狭山市役所 3階 協議会室
出席者	上楠木委員長、小野副委員長、菊屋委員、疋田委員、吾妻委員、俵委員、橋本委員、岡田委員、小川委員、前川委員、山田委員、芥子委員、中杉委員、田中委員、水口委員、楠委員、山崎委員
次第	1 狭山ニュータウン地区活性化指針骨子（案）について 2 その他

1 会の成立 委員総数 19 名について 17 名の出席があり、過半数の出席によって会の成立を確認した。	
議題 1 狭山ニュータウン地区活性化指針骨子（案）について 資料 1、2 について事務局より説明があった。	
委員 委員長	骨子案について、項目ごとに区切って協議をお願いしたい。 初めに骨子の と について、その後で と について意見をいただく。まずは、骨子の と について質問や意見をお願いしたい。
	地区の資源と課題
委員	頁 4 の「耕作放棄により農地が減少しています。」について、耕作放棄という表現は適切ではない。農地の減少は農家の責任ではなく、国の政策の問題である。後継者不足など、農家にとって継続困難な状況によってミニ開発が進んでいる。頁 5 の引っ越したい主な理由について、表で表現すると分かりやすい。
	空き巣の発生と防犯対策
委員	頁 2 の年齢階層別の人口推移では、市外に職場があることが大阪狭山市からの流出につながっている。ニュータウンで生まれ育っても、市外に就職するとそのまま転出してしまう。市内に就労の場を確保することは難しい。 耕作放棄について、大野地区の農家は息子が継がない。全国的に起こっていることで、息子はサラリーマンになって農家の跡を継がない。外部から農業をやりたい人に来てもらう方策がとれないか。
委員	頁 6、住み続けたい理由で、「治安が良い」があるが、1～8 月に 10 件ほど空き巣が発生している。治安が良いという評価が崩れつつあり、防犯対策がいる。
	頁 1、活性化指針の位置づけについて、「さまざまな立場の人たち」に西山台四丁目、五丁目の住民は入っているのか。公営住宅は住戸数や人口では約 1/3 を占めている。また、団地の空き家の状況は調べているのか。
事務局	頁 4、周辺地域について、大野地区の住宅開発の居住者は円卓会議に参加されているのか。自治会や子ども会は設立されているのか。 府営住宅の住民の方は、この会議には参加されていない。
委員	平成 27 年の国勢調査において、空き家についておおよその実態を把握している。周辺地域の大野東・西地区、今熊四丁目は南中学校区の円卓会議のエリアになる。円卓会議には 12 の自治会が加入しているが、大野東・西地区は新しい住宅開発であり、自治会ができておらず円卓会議に入っていない。新しい入居者が続いており、自治会ができるのには時間がかかる。
委員	頁 2、コミュニティ、地域活動について、18 団体の内、12 団体が円卓会議に入っているのか。

委員 委員長	6 団体に対して円卓会議参加の呼びかけをしているが、加入していない。 空き家対策は戸建て住宅を対象としているが、将来的には集合住宅の空家対策が必要になる。
	交通機関の利便性に係る周知
委員	頁 5、引っ越したい理由について、「通勤先・通学先に遠く不便である」とあり、不便さに焦点が当たりやすいが、金剛駅は特急を停めており、利便性が高い。
委員	「公共交通機関が整っていない」というより、公共交通について知らない人が多いのではないかと。交通機関や利便性の周知が必要ではないかと。
委員	大野のぶどう園は、何年か前の雪や今回の台風被害によって生産が減っている。ぶどう園が宅地化して若い世代の入居が進んでおり、大野のぶどうが今後も魅力資源となるのか分からない。
委員	農家は後継者がいないため、自分のところで食べる分だけを生産しているところが多い。
委員	都市づくりの理念として、「水と緑きらめき、安心して暮らせる いきいきとした生活都市・大阪狭山」とあり、共感できる。水はため池であり、緑は大野の自然や陶器山の緑地である。緑環境や大野の農業を守るために、農業政策が必要になる。
	現状と課題に絞った表現
副委員長	頁 2、「新たな交流や活躍の場づくりによるまちの活性化」について、今はどうなのか、現状と課題に絞ってタイトルを付けた方が分かりやすいのではないかと。
	地区の将来像、取組項目について
	市全体における狭山ニュータウンの関係性や位置づけ
委員長	頁 11 以降の 、 について質問や意見をお願いしたい。
委員	指針案は、大阪狭山市全体に当てはまる内容に止まっているのではないかと。市全体における狭山ニュータウンの関係性、位置づけなどをはっきりさせた方が分かりやすい。
委員	指針や将来像のタイムスパン、計画期間をどのように考えるか。10 年の間に我々は年金世代となり、公共交通の充実が大切な取組みとなる。
委員	公共交通機関は、利用しないと廃止になってしまう。自分たちで公共交通を育てる視点が必要である。
委員長	大阪狭山市におけるニュータウンの位置づけや、タイムスパンについて、他に意見があれば出して欲しい。前回の委員会では、周辺地域も含めた検討が必要との意見もあった。
	耕作放棄地や住宅開発について全市的な対策
委員	頁 4 周辺地域の耕作放棄地や住宅開発については、全市的な対策が必要になる。農家はできれば継続したいが困難な状況があり、支援が求められている。
	平成 35 年の近大病院移転と指針の期間
委員	ニュータウンは高齢化が進んでおり、高齢化率は全市に対して 10% 以上高い。全市では人口は微増であるが、ニュータウンでは人口減が進んでいる。指針のタイムスパンについては、平成 35 年の近大病院移転に向けて考えるべきではないかと。帝塚山学院大学も移転する。スパンは絞って考えるべきではないかと。
委員長	タイムスパンについては、頁 1 にビジョンであることを示しており、概ね 10 年間の期間を想定する。
事務局	期間として 20 年、30 年後では長すぎるのではないかと。期間は 10 年として、指針にもとづき取り組む。緊急を要する課題については 5 年を目途に取り組みた

	い。
委員	団塊世代が後期高齢者となることに、どのように対応していくかが問われる。
	オールドタウンの共通問題と計画の特色づけ
副委員長	他のニュータウンでも同様の課題が生じている。50年を経た団地において共通する問題であるが、その上で、この指針のどこに特色を持たせるかが問われる。
委員	前回委員会資料では、3つの将来像が出されていた。この間の検討経過を説明して欲しい。近畿大学医学部附属病院の移転を考慮すると、「健康」にフォーカスし、「健康で幸せに暮らせるまち」を目標とするのがよいのではないか。それと、指針の体系案は一覧表ではなく、フロー図の方が流れが分かりやすい。
事務局	将来像については、市としても悩んでいるところである。この間の庁内の検討委員会において、取組項目を絞り込んだ方がよいという意見があり、その結果、将来像についても1つに集約した。あくまで、たたき台であるので、委員会で意見をいただき、仕上げていきたい。
	歴史をもとにした物語と自分事のできる指針
委員	指針には、これまでのニュータウンの歩みが反映されていない。ここで、大阪狭山市のまちづくりを動かすキイパーソンが現れた。何も無いところから、お母さんたちが孤独にならない子育て環境をつくってきた。ここで、おばちゃんたちに育ててもらったという思いが受け継がれている。 市民が積極的に公民館や文化行政に参加しており、狭山ニュータウンはおばちゃんたちの元気なまちである。そこに、リタイアした男性が戻ってきて、円卓会議などで活躍している。 「人が育つまち」であったことが狭山ニュータウンの魅力であり、これまでの歴史をもとにして、新しい物語をつくりたい。若い女性は、小商いやマルシェなどの輪を広げている。次の子育て世代の活躍につながるように、自分ごとのできる指針としたい。
委員	ニュータウンで生まれ育って大阪市内に引っ越ししたが、子育てで大阪狭山市に戻ってきた。同級生に会うと、ここで子育てしたいという声を聞く。市外から若い人を呼び込むことに加えて、生まれ育ったまちで子育てしたい人のニーズにも応えて欲しい。
	ニュータウンは、緑の自然環境があり、家の前で安心して子どもを遊ばせることができる。子どもたちが見守られているという安心感がある。近所の人も、自分たちの孫のようにみてる。体験移住の機会があれば、分かってもらえる。
委員長	50年の歴史を基にして、現状と課題が語られる必要がある。狭山ニュータウンの暮らしの姿を加えることで、指針が住民にとって自分ごとになるのではないか。
委員	29歳の時にニュータウンに移ってきたが、何も無い中で子育て環境づくりに取り組んできた。それが、子どもたちに受け継がれている。
委員長	頁11、めざすべきまちと暮らしの姿において、これまでに培われた狭山ニュータウンらしい暮らしぶりやライフスタイルが表現できるとよい。
	環境を維持した敷地分割など若い人を呼び込む取組み
委員	頁13,18において、地区計画や建築協定について書かれている。住宅や敷地の大きさ等を規制する考え方か。家族が増えて増築を考えたが、容積規制によって増築できずに引っ越した世帯があった。
委員	協定に参加する所有者がエリアを定めて、敷地や建物の大きさなどを決定し、環境を維持する。狭山ニュータウンの一部地区では、敷地を分割しないことや緑化について協定を結ばれており、地区の価値を高めている。
委員	ニュータウンは地価が高く、若い世代は入ってくるできない。若い世代が買うことができる、入ってこれるために、一定規模の分割は必要ではないか。景

委員	<p>観や緑地を維持することで、若い人たちを呼び込みたい。</p> <p>頁 13、視点 4 の用途地域の見直しは、商業施設が立地できるなど規制緩和の方向で考えている。若い世代が入って来やすいように、新たなルールづくりをしたい。</p>
委員	<p>戸建住宅、公団の分譲住宅、賃貸住宅、福祉対応の住宅など、多様な住宅があるといった、良さを打ち出せるとよい。</p>
委員 委員	<p>若い世代向けの住宅では、戸建てだけでなく、賃貸住宅が必要である。</p> <p>府営住宅 1,440 戸について、空き家が約 220 戸ある。応募倍率は 0.7 倍である。エレベーター設置の他に、空き家を集約して活用地を生み出すなど、府営住宅の再利用について検討を進めている。今後、取組みについて入居者に説明していく。市と協議して、地域にあった集約を行いたい。</p>
委員長 委員	<p>府営住宅では、若い世代の入居に配慮しているのか。</p> <p>UR では、若い世代向けのリノベーションを行っている。府営住宅は所得階層が限定される。府の教職員住宅を処分して分譲している例がある。集約では地域に必要な土地利用を検討していきたい。</p>
委員	<p>泉北ニュータウンでは、府営住宅にグループホームが入っている。狭山ニュータウンの集約でも検討して欲しい。</p>
委員 委員	<p>市のニーズに応じて、空き室活用を含めて検討したい。</p> <p>家族が府営住宅に入居するにあたり、洗濯機置き場がないなど、設備水準が十分でないことが気になった。新しい設備水準に更新されていない。</p>
委員	<p>頁 14、1-3 多様な住まいの供給・流通の促進について、かつてのように、子どもと高齢者の交流が生まれることが望ましい。老人会は人数に応じて助成金をもらっているが、子ども会の活動助成はされているのか。</p>
委員	<p>単位子ども会への助成は行っていない。公民館で行われているイベントや市全体の行事など、事業に対して助成している。</p>
委員 委員	<p>かつては自治会から子ども会に対して、助成を行っていたのか。</p> <p>子ども会自身が、会費を取って運営されているかもしれない。</p>
委員	<p>豊かな交流をどうつくっていくか</p> <p>20 年前は子育て環境が十分ではなく、お母さんたちが運動クラブを立ち上げる、自分たちで母子の出会いの場をつくるなどの必要があった。現在は、ワークレッシュやぽっぼえん、家庭学級などの子育てサービスがつくられている。</p>
委員	<p>ぽっぼえんでは、子どもを遊ばせながら職員に相談できる。ぽっぼえんが遠いと難しいが、スマホのラインでつながって情報を取りに行くことができるので、孤立することは少ないのではないかと。コミュニケーションが苦手な人は孤立する可能性がある。</p>
副委員長	<p>ニュータウンの初期には、サービスを自分たちで創り出す必要があり、そこで交流が生まれる。サービスが整って便利になると、お客さんになってしまう。情報発信やみんなで何かをつくっていくプログラムが重要である。</p> <p>将来像のはじめの 2 行は、「若い世代を呼び込む」にかかっている。交流を生み出すことに将来像の比重を移してはどうか。</p> <p>頁 11 の「1 子育て世代から・・・集い交流する機会や場が豊富にあるまち」が大切ではないか。子育て層や高齢者が交流して、世代交代や世代継承ができるまちや、小商いなどコミュニティ経済の活動が盛んであり、豊かな交流をどうつくっていくかが大切な視点である。</p>
委員	<p>円卓会議は自治会にまたがる課題に対応</p> <p>頁 9、道路・交通等について、コノミヤ、銀行、コミセンのそれぞれの駐車場が分散しており、出入口で渋滞を生じているなど、交通問題が発生している。駐車</p>

委員	場が集約できるとよい。頁 13 の視点 5 に、交通の安全対策を加えてはどうか。市では、これまでに土地所有者と協議を続けてきたが解決に至っていない。警察から指導があって、ガードマンが配置されている。駐車場整備について具体的に記述することは難しい。
委員	自治会等の表現で、自治会と他の団体が並列で書かれている。自治会がないと、地域や行政は機能しない、自治会役員の負担は大きいことを市民に分かって欲しい。「自治会とは」という注釈を入れて欲しい。
委員長	第 1 回委員会で、これまでの地域活動の歴史について資料があった。神戸市ではふれあい協議会といったまちづくりの地域組織があり、自治会とテーマ型の組織の役割分担が図られている。
副委員長	市全体の自治会加入率は 6 割前後であるが、4 割前後になると地域活動は成り立たなくなる。円卓会議は自治会とテーマ型の活動を結びつけようとしている。
委員	南中円卓会議には理事が 26 名いて、主に自治会会長が理事として参加している。自治会にまたがる課題や単位自治会では解決できない課題に対応している。
副委員長	大阪市では地域活動協議会がつけられている。みんなで話し合うことができるプラットフォームが求められており、自治会だけでなく、NPO や事業者も参加できる。
委員	自治会は地域活動のベースになる団体である。その上で、他の団体や NPO との連携を行うことになる。
副委員長	地域の状況によって、自治会中心の地域、テーマ型団体中心の地域がある。
委員長	指針は方向だけを示して行政の縦割りを超えたモデルに これまでのニュータウンを支えてきた資源や課題、仕組みについて書く必要がある。自治会や円卓会議など、担い手である人を描いていく必要がある。交流がキポイントであり、交流の場所は公園、農場、子育て施設などがある。阪神淡路地震の復興では、小学校の他に、建物と公園が一体になった場所がよく使われていた。小学校は学校の先生が人材となっていた。建物と公園を縦割りではなく一体的な運営する交流の場づくりが考えられる。そこに神社などの歴史的な資源が関わってくると、愛着につながる。それと、これをどう実現していくのかという実現方策が必要になってくるのでは。
副委員長	細かいことを決めてしまうと、それに縛られるので、指針は方向だけを示すことがよい。都市計画、教育、福祉などの行政の縦割りを超えたモデルとなることをめざしたい。目標と取組みに加えて、チェック体制や推進体制の骨子が必要ではないか。
委員長	どんな暮らしができるかイメージを示し、縦割りではないハードとソフトを連携させた取組みを示す必要がある。
委員	取組みの優先順位や実施主体を示す 頁 14、1-5 地区の空きスペースの活用について、働く場としての利用によって、職住近接の拠点づくりを入れるとよい。 頁 19、4-6 は公園の再整備というより、パークカフェ等、住民による公園の活用を加えてはどうか。 頁 20、地域活動による防犯の取組みを加えてはどうか。
委員	防犯カメラの導入について円卓会議で議論している。防犯カメラ等の有効活用等について記述できるとよい。
委員	取組みを実現していくために、3 年、5 年、10 年などの時間軸を入れてはどうか。人ごとにならないように、市民、事業者、行政など、誰がするのかについても書いてはどうか。
委員長	市民が自ら関わっていけるように、取組みについて優先順位の整理がいるのでは

委員	ないか。どこから取りかかるか、誰がやるのかを示せるとよい。
委員	頁 18、公共交通サービスについて、5 年後の近大病院移転がポイントになる。そこに向けて、「バスに乗って残そう公共交通」といったバス利用の雰囲気醸成することが考えられる。
委員	子育て層や若い世代の呼び込みが大切である。近居支援、空き家バンク、引越支援など、市が行うべき施策があるが、どうなっているのか。近大病院が移転すると、産婦人科はどうなるのか。
委員	市内に入院出産ができる病院はなくなる。入院して出産ができるのは近大病院だけである。
事務局	市では家賃補助などの住宅に係る助成は行っていない。耐震改修の助成は行っている。子育て支援については、施策をパッケージ化して提供している。
委員	公園の利用実態はどうか。
委員	ボール遊びや打ち上げ花火等は禁止している。東大池公園は南部の防災拠点として、防災倉庫を設置している。新しい公園では、地域の状況に即した整備をしていきたい。
議題 2 その他	
近畿大学医学部附属病院の移転に関するアンケート調査結果について事務局より説明があった。	
委員	商工会は具体的な動きをしているのか。
事務局	中小企業診断士によるセミナーを開催したと聞いている。
委員	頁 11、バス本数減の対策について、市の対策に加えて、市民の利用促進が課題となる。
次回委員会の日程について	
第 4 回策定委員会	
日時 平成 30 年 11 月 13 日 (火) 午後 1:30 ~	
第 5 回策定委員会	
日時 平成 30 年 12 月 17 日 (月) 午前 9:30 ~	
活性化シンポジウムについて	
日時 平成 30 年 12 月 1 日 (土) 午前 10 時 ~	
場所 コミュニティセンター	